

第4号 NGO スタッフの苦悩

(平成 16 年 12 月 8 日発行)

～“SHG のために”、今まで一生懸命やってきたのに何がいけなかったの！？～

ソムニードが PCUR-LINK 事業のカウンターパートと一緒に活動しているマヒラ・アクションのあるスタッフのつぶやき。「PCUR-LINK 事業が開始した 7 月以来、どう仕事をすればいいのか、わからない。今までは何の迷いもなく、“SHG のために”って一生懸命やってきたのに、どうして！？」

11 月、ソムニード全スタッフを動員して、マヒラ・アクションのスタッフと共に、1 日平均 5 つの SHG ミーティングを訪れた。1 ヶ月間で、66 の SHG のうち、メンバー不在等の理由で、ミーティングが開かれなかった SHG を除いて、合計 60 の SHG の月別ミーティングに出かけた。今までも、SHG の会計データは毎月マヒラ・アクションのスタッフによってソムニードへ提出されていた。しかし、データだけでは見えない SHG の現状、現場のスタッフの実情を把握するため、「徹底的現場主義」のソムニードは、全スタッフを動員してのフィールド訪問を実施。

その結果、マヒラ・アクションのスタッフの“つぶやき”の背景が見えてきた。

以下は、ソムニードのスタッフが、60 の SHG ミーティングを訪れた結果、見えてきたマヒラ・アクション・スタッフの苦悩の一部である。

“今日は金がないから 4 日後に、ローンの返済金払うわ。だから、もう一度、4 日後に、集金に来て”と、言われれば、SHG のために、月に 7 回くらいは 1 つのグループに出かけていた。何度も足を運ぶのが大事だと思っていたの。SHG のことは、なんでも全部やってあげてきたわ。あるグループでは、7 年間も、この 10 月まで、記録をつけてあげたり、集金してあげたり、いっぱいあれこれしてあげてきたの。月例ミーティングだって、私がいつも日時を決めてみんなを招集していた。その度にみんながちゃんと来てくれるかどうか、心配だったわ。でも、最近、SHG メンバー自身で会計記録をつけたり、貯蓄もローン返済金も自分たちで集めたり、次回ミーティングの日時も決めるようになってきた。私のグループ訪問も、1 グループに 1 回か 2 回になってしまった。私ってもう SHG に必要ないのかしら？

“もう銀行からも、グループのメンバーもお金を貸してくれないの。だって、アタシ(SHG のオバチャン)、前のローンの返済をしていないから。でも、今すぐ、お金が要るのよ！”と、泣きつかれるたびに、貧しくてかわいそうな SHG のメンバーために、他のメンバーに内緒で団体からお金をこっそり貸してあげたり、彼女たちのネックレスや指輪などのゴールドを抵当に入れて、お金の都合をつけ

てあげたの。でも、今は月に1度のミーティングで、誰にいくらローンを渡すのか、グループ全員の前で記録をつけるようになったから、もうこっそり、お金を貸してあげることができなくなった。もう私のこと、SHG メンバーは頼ってくれないんじゃないかしら？

“アタシ等(SHG のオバチャン)、貧しくて娯楽がないから、たまにはピクニックや映画に連れて行ってよ！”といわれる度に、SHG のために、ピクニックや映画に連れて行ってあげたの。でもチェーンナイに視察に行ったら、お寺巡りとか、ピクニックとか、SHG が自分たちの金でやっていたの。どうしてそんなことが貧しいSHG にできるのかしら？

“アンタたち NGO は、SHG のアタシ等のところに、ヨソから人をいっぱい連れてきて、活動を見せては、金もらっているんでしょ、だからアタシたちにもローンとか、家とか、何か頂戴よ！”といわれる度に SHG のために、貧困家庭用に無料配布されるガスストーブをもらってきてあげたり、銀行の融資が得られるよう、銀行に話をつけてあげたりしたの。「貧しいSHG の女性を助けてあげているんだ」って信じていたのに、ソムニードの人たちには、「それは対等な関係じゃない。SHG に足元を見られている！」って言われるの。どうして！？

10月のミーティング：“あんた(オバチャン2)の名前でローン借りといてよ、アタシ(オバチャン1)、まだ未返済のローンがあるのよ” 11月のミーティング：“アタシ(オバチャン2)、先月、名前貸しちゃったから、今度はあんたの(オバチャン3)名前でローン、借りといてよ。” 12月のミーティング：残りのメンバーで、 と を繰り返す。。。こんなことしていたら誰が、いつ、いくら借りたかわからなくなってしまうってわかっていたけど、困ってる SHG のために、って黙ってたの。これって、いけないことだったの！？

SHG の活動モニタリングフォーマットが導入された途端、ミーティングを毎月開いていないグループ、不定期的な貯蓄やローン返済などが、誰の目にも、明らかになってしまった。“日雇いの仕事が忙しくてミーティングが開けない”とか、“先月も、今月も生活が苦しくて貯蓄ができないの”っていう SHG のために、毎月ミーティングを開いたように議事録を書いてあげていたり、目標の貯蓄やローン返済額と、実際の金額を近づけるよう、(記録上、SHG のパフォーマンスをよくみせよう)数字を操作していたことも、ソムニードの人たちにバレてしまったし、もうそんなことができなくなってしまったわ。どうしよう！？

SHG が始まって、2年たって、5年たって、メンバーは “子どもの学費が払えないの”、“家には寝たきりの子どもがいるの”、“家の修理代が払えないの”って、“あれをくれ、これをくれ”とってくる。その度になんとかしてあげなくちゃって思ってきたけど、それって頼られているんじゃないの！？

今まで迷うことなく、ただただ一生懸命やってきた。

みんな SHG のために。。。スタッフは、SHG のオバチャンたちから、頼られることに自分の存在意義を感じて、献身的に SHG のために、その運営を一手に担い、彼女たちの“ニーズ”に応えよう、としていた。その年月は、1 年や 2 年ではなく、長いスタッフでは、7 年間に及ぶ。だから、たとえ “私が今まで、一生懸命やってきたことは、一体何だったの？”と、疑問を持ったとしてもそんなに急には、疑問を疑問として認めることが、出来ないでいる。

ビシャカパトナム市内、また同市近郊のスラムの最も脆弱な立場におかれている女性が今までできなかった SHG の運営を可能にしてゆく。社会のストレスの溜まり場のようなスラムを変えてゆこう、としている。

「SHG のオバチャンはこの大きなチャレンジに不可欠なパートナーなのだ。」とスタッフが胸を張って、言えるようになるには、まだまだ時間がかかる。自分たちが今まで献身的にやってきたことが「援助依存を生み出していた。」こと、「自分の存在意義は、貧しい人々に頼られ、その願いをかなえてあげることではない。」ことに無意識でも、少しずつ気がつきはじめたマヒラ・アクションのスタッフ。だからこそ、「どうしたらいいか、わからない」という疑問や苦悩が生じ始めたのだ。

SHG オバチャンも変わる。スタッフだって、変わる。次号に続く。いや、続かなくちゃ。
